

**令和 8 年度（2026 年度）長野県立大学 大学院 健康栄養科学研究科 修士課程
選抜試験（夏季）【⑥公衆衛生学、社会疫学、地域保健、実装科学領域】**

問 問 1 および問 2 に答えなさい。なお字数制限はない。

問 1 公衆衛生における、1 次予防・2 次予防・3 次予防について、それぞれ具体例をあげながら説明しなさい。

【解答例】

① 1 次予防

説 明：集団における、疾病や健康障害の発生防止と健康増進を図ること

具体例：健康増進（健康教育、健康相談、栄養教育、栄養相談、運動教室、環境整備など）、
特異的予防（予防接種、事故防止、アレルギー対策など）

② 2 次予防

説 明：集団における、疾病の早期発見・早期治療による進展の防止を図ること

具体例：健康診断、各種検診（がん検診など）、スクリーニング検査、適切な医療など

③ 3 次予防

説 明：集団における、適切な治療・指導による疾病の悪化予防と治癒を図ること

具体例：機能障害の防止（再発防止、後遺症予防など）、リハビリテーション（機能回復訓練、
作業療法など）

※参考：『サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 公衆衛生学・健康管理概論』（第一出版）

【出題意図】

公衆衛生と予防医学との関わりにおいて重要な 1 次予防・2 次予防・3 次予防について、その考え方および具体的な事例との関連についての理解を問う問題である。

問 2 A 町役場では、40 歳代の住民の高血圧予防・対策を目的として、全 10 地区の自治会長に働きかけ、地区ごとに減塩教室を実施することとした。住民は町外企業の就業者が多いため、教室は休日開催とした。地区ごとに年 1 回、90 分の開催とし、講義と減塩食試食を組み合わせた内容を企画した。2024 年度の事業成果を RE-AIM モデルで評価した結果は以下の表の通りである。この表から読み取れる範囲で、次の 2 点についてまとめなさい。

①事業にはどのような課題があると考えられるか。

②今後、事業の実効性を高めるにはどのようなことが必要だと考えられるか。

表 2024 年度の事業成果

項目	説明	事業成果
到達度 Reach	活動がどれだけの対象者に届いたか	自治会長が理解を示し減塩教室が開催できたのは5地区であった。この5地区には40歳代の住民は計1000人（うち男女それぞれ500人）おり、このうち教室参加者は男性50人、女性250人であった。
効果 Efficacy/ Effectiveness	活動によりどれだけの効果がみられたか	教室参加者に満足度を聞く目的でアンケートを実施した。その結果、参加者300人中250人が「参加して良かった」と回答した。
採用 Adoption	活動にどれだけの関係者が関わったか	役場内には管理栄養士が3人おり、そのうちこの事業に関わったのは1人であった。
実施精度 Implementation	活動が適切に行われたか	開催した全5地区で休日開催、90分の開催ができた。内容について、試食準備に関わる地域の協力者の都合で、減塩食試食ができない地区が1地区あった。
継続性 Maintenance	活動は持続可能なものか	実施した地区からは来年度も開催して欲しいという声があった。役場内では、事業の成果が見えないと今後の予算の維持が難しいと言われた。

【①解答例】

- ・到達度：自治会の半分は実施できていない。また、ターゲットとする40歳代の3割にしか到達できていない。性別にみると男性は1割、女性は5割と、男性の参加が特に少ない。
- ・効果：参加者の約83%が「参加して良かった」と回答し満足度は高いが、教室の目的である高血圧予防・対策としての効果がどの程度出ているのかについての評価がされていない。
- ・採用：担当する管理栄養士が3人中1人だけである。
- ・実施精度：休日開催や時間は実現できたが、試食ができない地区が1地区あり、全地区で同じ教室が開催されたとはいえない。
- ・継続性：継続希望はあるが、今後の継続のためには役場での予算確保が必要である。

【②解答例】

- ・到達度：全地区で実施できるように、自治会長への情報提供やコミュニケーションをよくする。また男性の参加率を増やすために、ニーズを聞く、参加しやすい環境づくりをする、周知方法を男女で別々にするなど工夫する。
- ・効果：高血圧予防・対策の効果をみるために、アンケートで血圧の知識等の変化を聞く、地区診断を行い特定健診の結果から地区全体の血圧平均値の変化をみるなどを行う。
- ・採用：他の管理栄養士2人や、その他の専門職（保健師等）も活動に関わってもらうために、部署内のコミュニケーションをよくする、事業をわかりやすく説明する、上司に積極的に関わってもらうなどを試みる。
- ・実施精度：どの地区も試食準備ができるような試食提供方法を考える、マニュアルを作成

- する、地域で一緒に取り組む仲間（食生活改善推進員など）を増やす。
- ・継続性：役場の予算確保のために、評価方法を工夫し、効果を可視化する（効果とも関連）。

【出題意図】

「健康日本 21（第三次）」で明記された「より実効性をもつ取組の推進（Implementation）」について、実装科学の評価モデルとして用いられる RE-AIM モデルの理解を問う問題である。

以上。